



## 第27回 技術報告会 静岡大学学長 挨拶

著者	日詰 一幸
雑誌名	技術報告
巻	27
ページ	i-i
発行年	2022-03-01
出版者	静岡大学技術部
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/00028627">http://hdl.handle.net/10297/00028627</a>

## 第 27 回 技術報告会 静岡大学学長 挨拶

学長 日詰 一幸

第 27 回静岡大学技術報告会の開催に際しまして、一言ご挨拶申し上げます。

今年度も昨年度に続きまして新型コロナウイルスの影響により、本来ならば対面で行うところですが、各会場をオンラインで結び、今回技術報告会が盛大に催されることを嬉しく思っております。

現在の新型コロナウイルスの蔓延に象徴されますように、私たちの目の前にはいろいろな事柄が山積しており、それらの今まで経験したことのないような大きなことが、その規模の大きさや速度と共に私たちの前にその姿を現しています。

まさに私たちにとっては不透明感が漂い先行きを見通すということも非常に難しい、それが今の社会の姿であると思います。そのような複雑さを抱えたこの時代は、私たちの想像をはるかに超えて世界の時間の流れというものが、一層その速さを増してくるようになっております。

このような時代であるからこそ、物事の本質を読み解いて、さらに科学技術の進歩と発展に一層の責務を要する「知と人材の集積拠点」である静岡大学には、地域社会から多くの期待が寄せられているということは皆様もお感じになっていらっしゃるのではないかと思います。このような中にありまして、技術の方面において多くを担っていただいております皆様が、常日頃からその技術の向上を目指して切磋琢磨され、また研鑽され、その専門知識を活かして技術の側面から本学の教育研究をサポートしていただいておりますことを本当に嬉しく思っておりますし、心から感謝を申し上げます。

今回は、そのような日頃の成果をご発表いただける機会でもありますし、参加者の皆様にとりましても実り多い時間になるのではないかと感じております。また今回の報告会は、昨年度と同じようにオンラインで行われますが、学内におきましてはキャンパス毎に対面方式で実施し、さらに学外からはオンラインで参加して頂くということで、非常に新しい取り組みもなされていると言えます。まさに、このような取り組みは、時代に即した本当に素晴らしい取り組みだと感じます。



静岡大学の教育研究の基盤を担っていただいております技術職員の皆さんと、また皆さまのお力添えに心から感謝するとともに、技術部のこれからのさらなる発展に向けて引き続きご尽力いただきたいと思います。皆様のご活躍、ご発展を心から祈念いたしまして、簡単ではございますがご挨拶に代えさせていただきますと思います。